

1905年のロシアにおける蜂起の意義

しかし、われわれは、問題を明瞭に、明確に提起することを要求する。もし諸君が、蜂起の時代はロシアにとっては過ぎさったと考えるのであれば、そう言いたまえ、そして、諸君の見解を公然と擁護したまえ。われわれは、具体的事情の観点からそれを評価し、全面的に平静にそれを討議するであろう。しかし、諸君自身が、「いつなんどきでも」蜂起が可能であり、それが必要であるとかたると、そのばあいには、われわれは、国会の積極的ボイコットに反対するありとあらゆる議論に、哀れなマニーロフ主義だという焼印を押すし、今後とも押すであろう。もし蜂起が可能であり必要であるのなら、そのばあいにはわれわれは、まさに蜂起を、国会をめぐるわれわれのカンパニア全体の中心スローガンにしなければならないし、また、この蜂起のスローガンを避けるオスヴォボジデーニエ派の一人一人のなかにある、「フランクフルトの議会的おしゃべり屋」の利得ずくの根性をあばきださなければならない。もし蜂起が可能であり必要であるのなら、それは、蜂起をめざす合法的闘争の合法的中心などというものはなく、蜂起をマニーロフ的な空文句でおきかえてはならない、ということの意味する。もし蜂起が可能であり必要であるのなら、それは、政府が、民主主義的批判にたいする反批判として、「銃剣を日程の第一位にのぼせ」、内乱を開始し、戒厳状態をもちだした、ということの意味する。そして、このような事情のもとで、国会の「ほとんど議会的な」看板を真にうけ、ペトルンケヴィチ一味と手に手をくんで議会遊びを闇のなかでこっそりとはじめることは、革命的プロレタリアートの政策を、喜劇役者の役割を演じているインテリゲンツィアの政治術策によっておきかえることを意味する！

………作家の言葉のうえではなく、実際に「政党の存在の法的基盤」（ロシア社会民主労働党をもふくめて）がつくりだされるときには、われわれは、蜂起の問題全体をあらためて再検討しなければならないだろう。なぜなら、われわれにとっては、蜂起は社会主義をめざす闘争の自由な舞台をたたかいとるための、重要な手段の一つであるにすぎず、かならずしもつねにとらなければならない手段ではないからである。

第九卷 P286~287 「議会遊び」

ポイント

1905 年 9 月 26(13) 日

1905 年 1 月 9 日以降ツアリーはごまかしの「国会」の約束と人民への弾圧を強め、当時、蜂起が必要であると同時に可能な情勢となっていた。

もし蜂起が可能であり必要であるのなら、そのばあいにはわれわれは、まさに蜂起を、国会をめぐるわれわれのカンパニア全体の中心スローガンにしなければならないし、もし蜂起が可能であり必要であるのなら、それは、政府が、民主主義的批判にたいする反批判として、「銃剣を日程の第一位にのぼせ」、内乱を開始し、戒厳状態をもちだした、ということの意味する。

実際に「政党の存在の法的基盤」（ロシア社会民主労働党をもふくめて）がつくりだされるときには、われわれは、蜂起の問題全体をあらためて再検討しなければならないだろう。なぜなら、われわれにとっては、蜂起は社会主義をめざす闘争の自由な舞台をたたかいとるための、重要な手段の一つであるにすぎず、かならずしもつねにとらなければならない手段ではないからである。

蜂起の直接の呼びかけの時

蜂起とは、非常に偉大な言葉である。蜂起の呼びかけははなはだ真剣な呼びかけである。社会制度が複雑になればなるほど、国家権力の組織が高度になればなるほど、軍事技術が完全なものになればなるほど、こういうスローガンを軽々しく提出することは、ますますゆるしえないものとなる。革命的社会民主主義者は、早くからそれを提出する準備をしてきたが、直接の呼びかけとしてそれを提出したのは、革命運動の重大さ、広さ、深さについてどういう動揺もありえず、事態が本来の意味での大詰に近づいていることについてどういう動揺もありえなかったときにはじめてそうしたのだということを、われわれは再三述べてきた。偉大な言葉は、慎重に取りあつかわなければならない。それを偉大な事業に転化させる困難は、たいへんなものである。だが、まさにそれだからこそ、空文句でこれらの困難をまぬかれ、マニーロフ的な思いつきで真剣な任務をはらいのけ、これらの困難な任務への「自然な移行」と称するものについての、甘い思いつきの目かくしを目にかぶせることは、ゆるしえないことであろう。

革命軍、これもまた非常に偉大な言葉である。それをつくりだすことは、困難で複雑な、長期にわたる過程である。だが、それがすでにはじまっていて、断片的に、一片一片すすんでいるのをわれわれが見るとき、またこのような軍隊なしには、革命の真の勝利は**不可能である**ことをわれわれが知っているときには、われわれは、断固たる、率直なスローガンを提出し、それを説きひろめ、それを政治上の焦眉の諸任務の試金石としなければならない。変革が社会＝経済的發展の条件によって完全に成熟したときには、いつでも革命的諸階級はこの変革をなしとげるのに十分な力をもっていると考えるのは、誤りであろう。いや、人間社会はそれほど合理的に、先進分子にとってそれほど「都合よく」できているものではない。変革は成熟しても、この変革の革命的創造者たちの力は、それをなしとげるのに不十分だということもありうる。そのばあいには、社会は腐敗し、この腐敗はときには何十年にもわたって長引く。ロシアで、民主主義的変革が成熟していることは、疑問の余地がない。だが、現在革命的諸階級に、それを実現する力が十分にあるかどうか、それはまだわかっていない。それを決定するのは闘争であり、そして、この闘争の危機的瞬間は——もしいくたの直接・間接の兆候がわれわれをあざむいているのでないたら——非常な速さで近づいている。精神的な優勢は疑いないし、精神力はすでに圧倒的に大きい。そういう精神力なしには、どのような変革も問題になりえないのは、もちろんである。それは必要な条件ではあるが、しかし、**まだ十分な条件ではない**。ところで、それがきわめて、きわめて重大な（このことにたいして眼を閉じないようにしよう）専制の反抗を粉碎するのに十分な物質力となるかどうか、これは闘争の成行がしめすであろう。蜂起のスローガンは、物質力によって問題を解決するスローガンであるが、現代のヨーロッパ文化のもとでそうした力というのは、軍事力だけである。このスローガンは、変革の一般的条件が成熟し、大衆の激昂と行動への決意とがはっきりした形で現れ、外的な事情が明白な危機に導かないあいだは、けっして提出してはならない。だが、いったんこのようなスローガンがかかげられたら、そのばあいには、このスローガンから、ふたたび精神力へ、ふたたび蜂起の基盤が成熟するための条件の一つへ、ふたたび「ありうべき移行」の一つ、等

々へ、後退することは、まったく恥ずべきことであろう。いな、いったんさいが投げられたなら、あらゆる逃げ口上を捨てて、変革が成功するための実践的条件は現在どのようなものであるかを、もっとも広範な大衆に、率直に、公然と説明しなければならない。

第9巻 P390~391 『「イスクラ的」戦術の最後の言葉』
『プロレタリー』第21号 1905年10月17日

ポイント

蜂起のスローガンは、物質力によって問題を解決するスローガンであるが、現代のヨーロッパ文化のもとでそうした力というのは、軍事力だけである。このスローガンは、変革の一般的条件が成熟し、大衆の激昂と行動への決意とがはっきりした形で現れ、外的な事情が明白な危機に導かないあいだは、けっして提出してはならない。

蜂起を直接の呼びかけとしてそれを提出したのは、革命運動の重大さ、広さ、深さについてどういう動揺もありえず、事態が本来の意味での大詰に近づいていることについてどういう動揺もありえなかったときにはじめてそうしたのだということを、われわれは再三述べてきた。偉大な言葉は、慎重に取りあつかわなければならない。それを偉大な事業に転化させる困難は、たいへんなものであり、空文句でこれらの困難をまぬかれることは、ゆるされない。

革命軍、これもまた非常に偉大な言葉である。それをつくりだすことは、困難で複雑な、長期にわたる過程である。だが、このような軍隊なしには、革命の真の勝利は不可能であることをわれわれは知っており、われわれは、断固たる、率直なスローガンを提出し、それを説きひろめ、それを政治上の焦眉の諸任務の試金石としなければならない。

いったんさいが投げられたなら、あらゆる逃げ口上を捨てて、変革が成功するための実践的条件は現在どのようなものであるかを、もっとも広範な大衆に、率直に、公然と説明しなければならない。

しかし、変革が社会＝経済的発展の条件によって完全に成熟しても、この変革の革命的創造者たちの力は、それをなしとげるのに不十分だということもありうる。そのばあいには、社会は腐敗し、この腐敗はときには何十年にもわたって長引く。

革命における先進的な階級の任務

革命における先進的な階級の任務は、闘争の方向を正確に認識し、勝利のすべての可能性、勝利のすべての機会をくみつくすことである。このような階級は、まっさきに直接の革命的な道にたち、また、一番最後にこの道を立ちさって、他の、より「日常的な」、より「迂回的」な道にうつらなければならない。

第11巻 P353 「メンシェヴィズムの危機」
『プロレタリー』第9号 1906年12月7日